

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

1. 建物概要

建物名称	新津第一中学校	
建設地	秋葉区 新栄町1番・2番	
用途地域	第一種住居地域	
建物用途	学校	
竣工年	2014年3月 予定	
敷地面積	34,224.92 m ²	
建築面積	4,778.10 m ²	
延床面積	9,470.22 m ²	
階数	地上4F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2012年10月31日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{50}{39} = 1.3$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.2		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.3		耐震・免震	3.8
			信頼性	2.8
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	4.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	3.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	4.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	5.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿命化の取組: 維持管理しやすい材料を使用しています。
- 地震への取組: 耐震グレードⅡ類 重要度係数 I=1.25 を採用しています。
- 大雨への取組: 雨水排水は、従前と変わらない排水量バランスとします。
- 自然エネルギーの取組み: トップサイドライト等による自然採光システムを採用しています。
- 資源循環の取組み: 既存校舎の一部を改修して利用しています。
- 水と緑を活かす取組み: 既存樹木を活かした外構計画をおこなっています。
- 新潟のまちなみへの取組み: 隣接する文化会館との連携で地域文化の拠点作りを考慮しています。

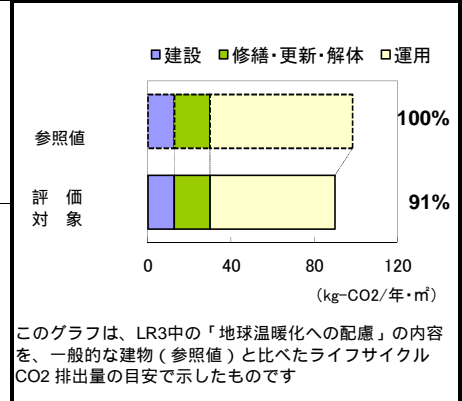
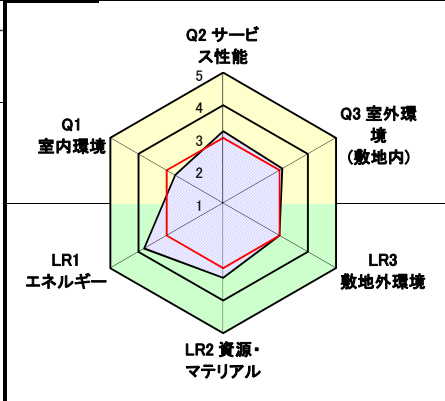
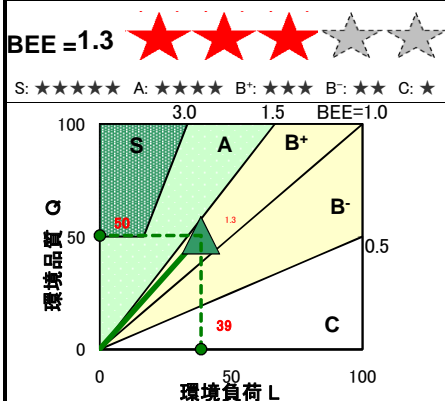
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

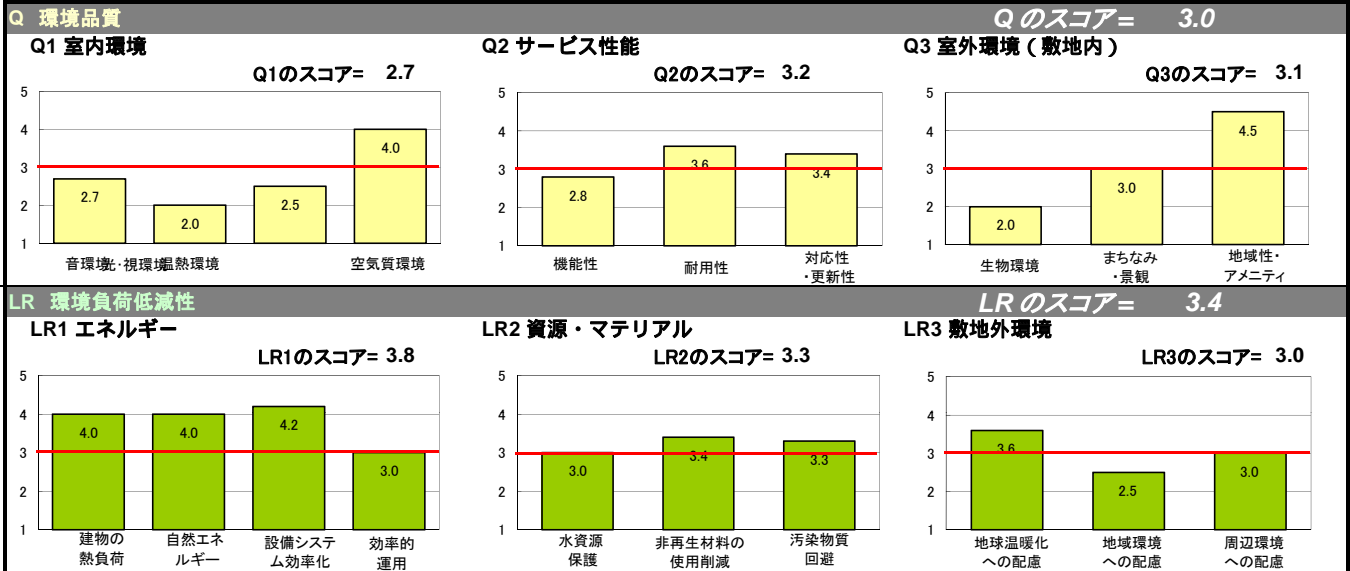
評価結果内訳

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル, CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 大項目の評価(レーダーチャート) 2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合 老朽化が進行し、耐震基準も確保されていないため、安全性確保と最新の教育内容に合わせた施すための改築事業である。 校舎と共に、グラウンドにおいても各種競技に理想的な配置を提供し、全体を見渡せる管理・安全性にも考慮した。		その他 様々な学習環境・機能の高度化を図るため隣接する文化会館と有機的連携ができるようにプログラムの相互・共同利用が可能な配置計画としている。2つの施設の連携によって秋葉区の文化・教育の中心地をめざす。
Q1 室内環境 室内騒音対策として、天井に吸音タイプの石膏ボードを採用する。また、エアコンを使う部屋については外壁面に断熱材を採用する。その他、特別な仕様の必要はなく、標準的仕様とする。	Q2 サービス性能 避難施設となることから、構造上の重要度係数を1.25とする。またバリアフリー新法の最低限の基準を満たす事とする。	Q3 室外環境(敷地内) 空地率が高く、通風がよく、舗装面積が少ないため敷地内温熱環境が向上に貢献。 既存の植栽等は、その多くを残す事とする。
LR1 エネルギー 体育館棟ではトップライトや吹抜け空間にトップサイドライトを設け自然光を建物内に取り込みやすい計画としている。現段階では特段の配慮はしないが、将来用として太陽光パネルを設置可能とする。	LR2 資源・マテリアル 既存校舎を一部残し・改修利用することで非再生資源の使用量削減に貢献している。 タイルについてリサイクル材を含む製品を使用する。	LR3 敷地外環境 雨水排水などを含め、既存状態と条件が変わらないようにする。 駐車場・駐輪場は生徒の安全を確保した配置計画とする

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される